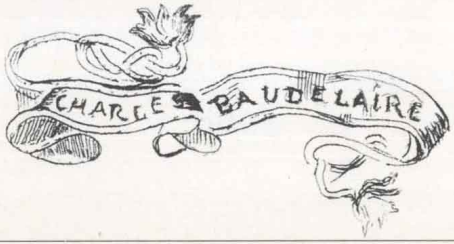
ボードレール批評 1

美術批評 I

阿部良雄訳



ちくま学芸文庫

ちくま学芸文庫

ボードレール批評1

一九九九年二月十日　第一刷発行
一九九九年三月五日　第二刷発行

著　者　シャルル・ボードレール
訳　者　阿部良雄（あべ・よしお）
発行者　柏原成光
発行所　株式会社　筑摩書房
東京都台東区蔵前二―五―三　〒一一一―八七五五
振替〇〇一六〇―八―四一二三
案　内　〇四八―六五一―〇〇五三（サービスセンター）
装幀者　安野光雅
印刷所　株式会社精興社
製本所　株式会社積信堂

ちくま学芸文庫の定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はお取替いたします。
© YOSHIO ABE 1999 Printed in Japan
ISBN4-480-08471-1 C0198

くま学芸文庫

ボードレール詩抄

ルルボードール

阿部良雄 訳

江苏工业学院图书馆
藏书章

筑摩書房

目次

美術批評Ⅰ

一八四五年のサロン（抄）……11

一　前置きのことば若干　12

二　歴史画　15

三　肖像画　41

四　風俗画　43

五　風景画　47

六　デッサン――版画（略）　54

七　彫刻　54

ボンヌ＝ヌーヴェル百貨店の古典派美術展……61

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

一八四六年のサロン……75
ブルジョワに　76
一　批評は何の役に立つか？　80
二　ロマン主義とは何か？　84
三　色彩について　88
四　ウージェーヌ・ドラクロワ　95
五　恋愛の主題とタサエール氏について　123
六　色彩家たち数人について　128
七　理想とモデルについて　143
八　素描家たち数人について　149
九　肖像画について　160
一〇　シックとポンシフについて　166
一一　オラース・ヴェルネ氏について　168
一二　折衷主義および懐疑について　173
一三　アリ・シェフェール氏と感情の猿たちについて　176

一四　懐疑家たち数人について　183
一五　風景画について　186
一六　なぜ彫刻は退屈か　198
一七　流派および職人たちについて　203
一八　現代生活の英雄性について　208
笑いの本質について、および一般に造型芸術における滑稽について……215
フランスの諷刺画家たち数人……247
外国の諷刺画家たち数人……283
一八五五年の万国博覧会、美術……301
一　批評の方法――進歩という現代的理念の美術への適用について――生命力の移動　302
二　アングル　315

三　ウージェーヌ・ドラクロワ　327
哲学的芸術……343
註　359
収録作品解題　凡例　403

ボードレール批評1　美術批評I

美術批評Ⅰ

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertong

一八四五年のサロン（抄）

一　前置きのことば若干

われわれは、よく知られた作家が自らの小さな著書について言うのと、すくなくとも同じほどの正当さをもって、こう言うことができる、われわれの述べることを、新聞は印刷する勇気がないであろう、と。すなわちわれわれは、まことに残酷、まことに不遜、というわけであろうか？　いや違う、それどころか、公平なのだ。われわれは仲間というものをもたない、これだけでも大したことだ、それに敵をももたないのだ。――ダニューブ河の農夫[1]たるG・プランシュ氏[2]、その威圧的にして博学なる雄弁が沈黙して、健全なる精神たちの大いに惜しむところとなってこのかた、新聞紙上の批評というものは、時には愚劣、時には猛々しく、独立不羈であることだけはかつてなく、その嘘の数々、その臆面もない仲間賞めの数々によって、『サロン』と呼ばれるこれらの有益な虎の巻にブルジョワが愛想を尽かすように仕向けてしまったのである。*

＊　立派な敬うべき例外を一つ挙げるとしよう、それはドレクリューズ氏[3]であって、われわれは氏と常に意見を同じうするものではないが、氏は常に能くその率直さを守り通してきたし、鳴物入りでもな

く誇張もなしに、しばしば若い無名の才能を掘り出すという功績を立ててきた。

そしてまず第一に、このブルジョワという無礼な呼称に関して、われわれは、わが偉大なる芸術家的同業者たちの偏見をいささかも頒ちもつものではないことを宣言するのだが、もしもこれらの先生方が良い絵画を理解させてくれる能力をお持ちだったならば、そして芸術家たちが良い絵画をもっとしばしば見せてくれたならば、良い絵画を愛することをもって無上の仕合せとするでもあろうこの無害な人物に対して、わが同業者たちは、何年も前から躍起になって呪詛を投げつけてきたのだ。

一里離れてもアトリエの隠語臭ふんぷんたるこの語は、批評の辞書から抹消されてしかるべきであろう。

ブルジョワ自身がこの悪口を用いるようになって以来——これは、新聞批評家たちに向けて、芸術家的になって見せようとする彼の善意を証明することだが——もはやブルジョワというものはない。

第二にブルジョワは——何といってもブルジョワというものがあるのだから——大いに尊重すべきものである。けだし生活の資を仰ごうとする相手の人々には気に入られなくてはならないからだ。

そして最後に、芸術家たちの間にかくも多くのブルジョワがいるからには、とどのつまり、階層特有のいかなる悪徳をも特徴づけるものではないような語は抹消した方がいい、

というのもそれは、そんな語にもはや値しないようになることをもって至上の願いとする者たちにも、自分がそれにふさわしいとはついぞ気付いたことのない者たちにも、等しく適用され得るのであるから。

われわれは、およそ型にはまった反対論や泣き言のすべて、陳腐かつ月並なものと化した反対論や泣き言*に対する同じ軽蔑をもって、同じ秩序の精神、同じ良識への愛をもって、この小冊子から遠くへ、一切の議論、一般に審査委員会というものについても、特に絵画の審査委員会についても、必要になったと言われる審査委員会の改革についても、展覧会のあり方と頻度、等々……についても、一切の議論を斥(しりぞ)けるのである。まず一個の審査委員会が必要である、これは明らかなことだ――そして展覧会の毎年開催はといえば、それは、公衆と芸術家たちに六つの美術館（デッサン画廊、フランス画廊の補足部、スペイン美術館[4]、スタンディッシュ美術館、ヴェルサイユ美術館[5]、海軍博物館）を享有させてくれている一人の王の、英明にして慈父のごとく鷹揚な精神の賜物(たまもの)なのであるが、偉大な芸術家はその生来の豊饒さからしてそこに利を得ることしかなく、また凡庸な芸術家はそこに相応の懲罰を見出すの他はないと、公正な精神は必ずや見てとることであろう。

＊　それらの異議は事によると正当であるかも知れないが、型にはまったものと化したがゆえに、泣き言であるのだ。

われわれは群衆と芸術家たちの目を惹きつけるものすべてについて語るであろう。――

われわれの職業意識がわれわれにそう命ずるのだ。――人の気に入るものはすべて気に入るだけの理由があるのだし、道に迷った者たちの群り集っているのを軽蔑したところで、彼らをその在るべき場につれもどす手だてとなりはしない。

われわれの叙述の方法は、単にわれわれの仕事を歴史画と肖像画――風俗画と風景画――彫刻――版画とデッサンに分け[6]、そして芸術家たちを、公衆の評価が彼らに振り当てた序列と等級とに従って並べることに存するであろう。

一八四五年五月八日

二　歴史画

ドラクロワ[7]

ドラクロワ氏こそは断然、往昔と現代を通じての最も独創的な画家である。そうなのであって、いかんともしがたい。ドラクロワ氏に味方する人々の誰一人として、最も熱狂的な人々すらも、われわれのごとく、このことを単純に、露骨に、臆面もなく、言うことを敢てしはしなかった。怨恨や驚愕や悪意をにぶらせ、障害物を一つ一つゆっくりと墓へ送りこむ時間というもののおそまきな裁きのおかげで、われわれはもはや、ドラクロワ氏の名が停滞派の人々にとっては十字を切るきっかけとなり、賢明であると否とを問わずあらゆる反対勢力にとって結集の象徴であったような時代にはいない。あの良き時代は過ぎ去

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong